

# ニッキン

## 預貯金照会を電子化

### 10分で500件処理

### 福島信金

広げたい考えだ。

いた。

【仙台】福島信用金庫（福島県、樋口郁雄理事長）は、行政機関向け業務の電子化で成果をあげている。4月に福島県福島市との間でNTTデータの預貯金等照会業務

は、行政機関の依頼で顧客の取引状況を回答。税金滞納者の資産把握や生活保護の受給判定に使われている。

福島市は2020年4月から、県内地域銀行3行（東邦・福島・大

東）との間で紙が不要となるピピットリンクを活用した預貯金調査を始めた。

結果データの作成を自動化するシステムをトランスソフト社（仙台市）と共同で開発し、信金中央金庫を経由する形でピピットリンクを使った預金調査システムを新たに構築している。

これを受け、福島信金も20年夏ごろに同市とでの間で電子化を検討。依頼に基づく顧客・取引データの抽出と

結果データの作成を自動化するシステムを開発したシス

テムは、ピピットリンクを使つたスキームであれば他自治体への横展開が可能。同信金は「福島市以外とも電子化を進めたい」（業務部）としている。

電子化の成果は大きく、従来は手作業で100件の調査に5時間を要していたが、現在は約500件を10分程度で自動処理。保管文書の削減や事務ミスの低減にもつながり、業務効率化に寄与している。